

知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

1 団体名

東京水道サービス（株）

2 実施日時

令和元年7月18日（木） 13時20分～13時33分

3 出席者

- ・団体側出席者：野田社長、志村取締役、
石井経営改革推進担当部長（水道局）
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長、
小林行政改革推進部長

4 議事概要

○小池知事

コンプライアンスを守ることは当然であるが、水道事業は都民にとって欠かせない事業で、かつ非常に広域にわたるため、育まれた知恵は、国内外で活用できると思う。

PUCとの統合という大きな課題にあたり、どのような方針を描いているのか。

○野田社長

コンプライアンスやガバナンスの強化をしっかりと構築したうえで、ただ単に統合するだけでなく、日本最大級の水道トータルサービス会社となることを大きな旗印に掲げていきたいと考えている。

○小池知事

ICT、RPA、AIの活用など、業務の効率化について、今後の展望はいかがか。

○野田社長

取引のあるメーカーとの間で、いろいろとアイデア出しを行っているところである。

○小池知事

これからスマートメーターが普及すれば、いろんな活用方法があり、水道を通じた形で都民の生活を守ることも考えられる。

○石井経営改革推進担当部長

スマートメーターについては、各水道事業者もかなり興味を示しているので、ICTの戦略の1つとして掲げていく。

統合するPUCは電算事業を得意とする会社で、ビッグデータによってどんな使い方をしているかが分かる。料金体系も含めて、いろいろなサービスができるだろう。水道局としても、鋭意努力して取り組みたいと考えている。

○遠藤総務局長

東京水道サービスの場合、管理職層と固有社員では、年齢的にも職層的にも断層がある。業務経験の違いもかなりある中、会社の中の一体感やそれぞれの意思疎通や技能承継で、課題や問題はあるか。

○野田社長

ベテランの水道局OBと若手の固有社員の2つの山がある。

水道局OBの人たちは、自分たちが水道局でしてきた仕事を継承したいと思っているが、若手の人たちに任せられるような継承の対象となる仕事が会社としてある程度しか受けられていない。水道局長とも相談して、今後どれだけの事業を受けられるか見据えながら、人材育成をしていきたい。

○志村取締役

先日、各部署、各社員から意見を出してもらい、経営方針と目標を策定した。

経営方針にも記載してあるが、固有社員に積極的に社の改善をしてもらうため、全部で9つの若手PTを作った。自発性を重んじることを積極的に投げかける形で進めており、会社内で一体感を作れるように工夫している。

○小池知事

統合に向けて、しっかりと進めてもらいたい。